

Version 2.7.5.8 変更内容

< 1 > 新規物件入力時 初期設定等の画面を省略する機能を追加

新規物件を入力する際、[工事概要（新規）]画面の登録後、[初期値設定画面]・[立面用部材選択]・[帳票選択]の各々の画面について、設定を省いて入力画面に進むことが可能になりました。

この操作を可能にする為には、<環境設定> - <一般>の[新規物件初期設置画面] の設定を行なう必要があります。

[工事概要（新規）]画面

従来の入力の流れ

[初期値設定画面]画面

初期設定・部材選択
帳票選択を省略して
入力に進みます

初期値設定だけを省いた
入力の流れ

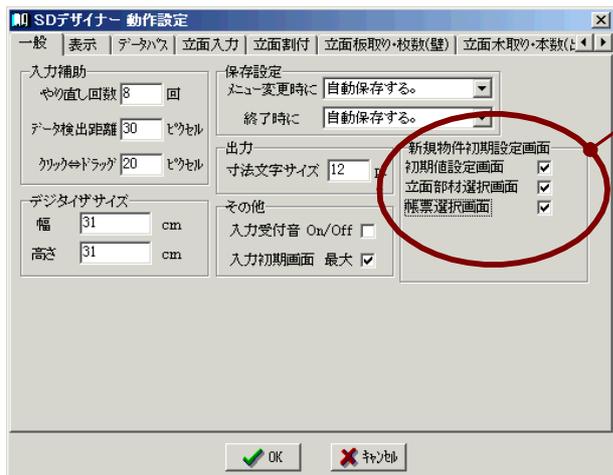
初期値設定・立面用部材選択
を省いた入力の流れ

[立面用部材選択]画面

入力画面

[帳票選択]画面

新規物件の初期設定等省略の設定



新規物件初期設定画面

省略したい設定画面のチェックをはずします。

初期値は、すべてチェックが入った状態になっています。

(初期値では、今までの入力の流れと同様に全ての設定を行うようになっています。)

必要に応じてチェックをはずしてご利用下さい。

注意

省略された各設定は、それぞれ下記の初期設定を読み込み自動設定されています。

新規物件初期設定の省略機能を利用する場合は、それぞれの初期設定を正しく設定しておく必要があります。

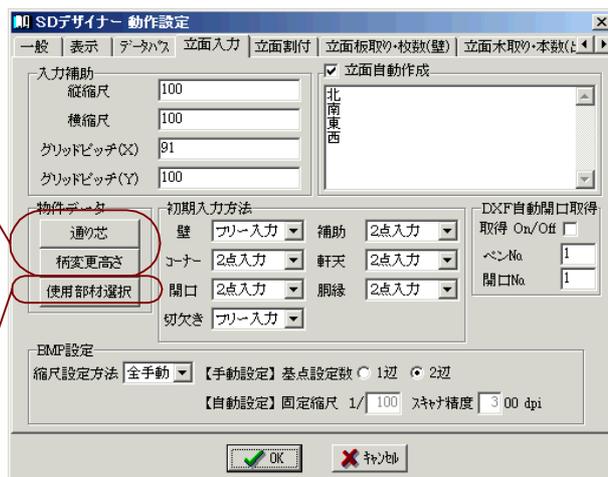
[初期値設定画面]画面



[立面用部材選択]画面



[帳票選択]画面



<環境設定> - <立面入力> - [物件データ]



<マスター> - <共通> - <帳票出力> - <帳票> の1番目に設定された帳票設定

< 2 > BMP読み込み時 縮尺設定機能に固定サイズ自動判定機能を追加

BMP読み込みに、縮尺を自動判定する機能が追加されました。

縮尺設定に、[全手動]・[半自動]・[全自動]の3つのパターンを設けてありますので、読み込む図面に応じて設定を選択して利用して頂けます。(2点を指示し、その2点間の実寸距離を入力して縮尺設定を行うという今までの方法は[全手動]のパターンとなります。)

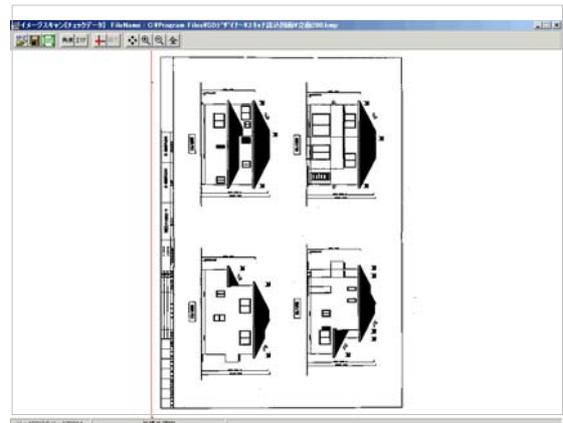
この設定を選択する為には、<環境設定> - <立面入力>の[BMP設定]において、縮尺設定方法を選択し【手動設定】又は【自動設定】を行なう必要があります。

全自動縮尺設定

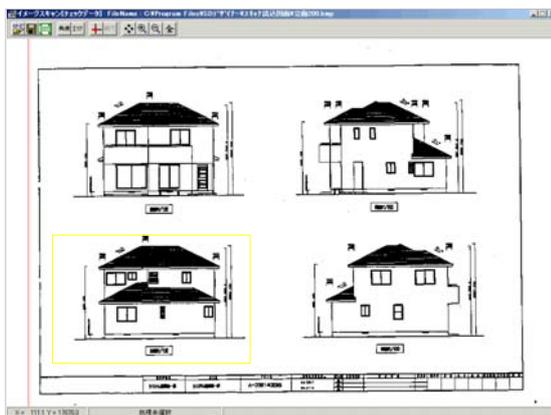
縮尺設定を全自動にした場合は、環境設定の固定の縮尺設定値を読み込みますので、画像データ読み込みを行なったあと、縮尺設定を省略して立面に登録ができます。



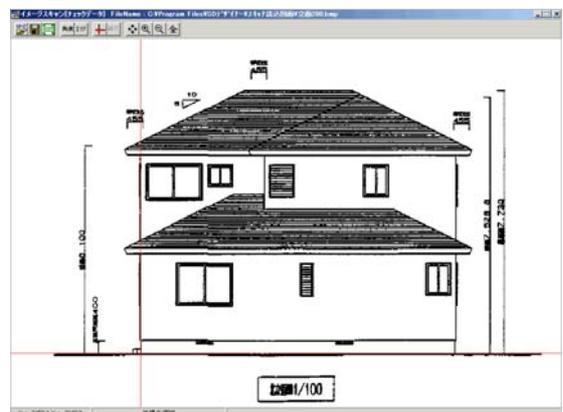
画像データ読み込み



角度設定



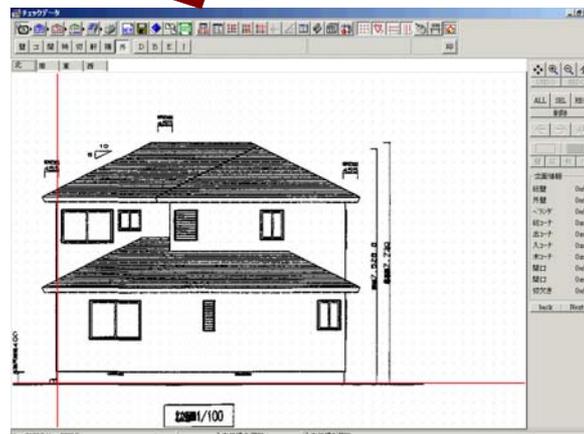
エリア設定



基点設定



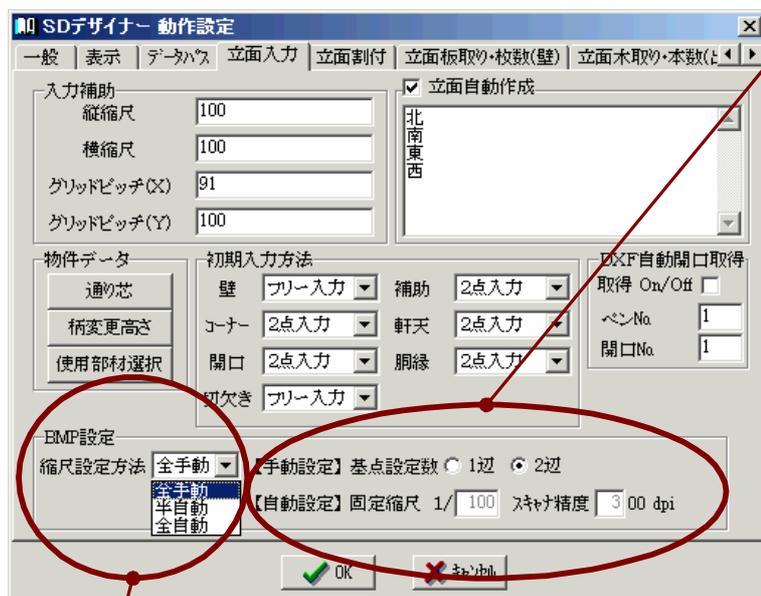
立面に登録



入力画面

縮尺設定を省略して登録!

BMP読み込み時の縮尺設定



縮尺設定方法

【手動設定】

手動で指示する2点が、1方向（1辺）か2方向（2辺）かを設定します。

初期値は、2方向（2辺）になっています。

【自動設定】

自動読み込みを行なう固定の縮尺値及びスキャナの解像精度を設定します。

固定縮尺・・・読み込み図面の縮尺設定

スキャナ精度・・・スキャナで読み込む時の
スキャナ精度

（最大精度では有りません）

初期値は、縮尺値 1/100、スキャナ精度
300dpi になっています。

縮尺設定方法

全手動

今までの入力と同様に、手動で2点を指示しその2点間の実寸距離を入力して縮尺設定を行います。
読み込みを行なう図面の縮尺が不正確な図面（コピー・青焼・FAX図面など）の場合にご利用下さい。

全自動

環境設定の自動設定で設定されている固定の縮尺設定値を読み込みます。

（2点指示の手動入力が省かれます。）

読み込みを行なう図面の縮尺が固定で正確な図面（プロッタ・プリンタで出力した図面など）の場合にご利用下さい。

半自動

手動で2点を指示し2点間の実寸距離を入力すれば、手動での縮尺設定を行います。

2点指示を行わなければ、環境設定の自動設定で設定されている固定の縮尺設定値を読み込みます。

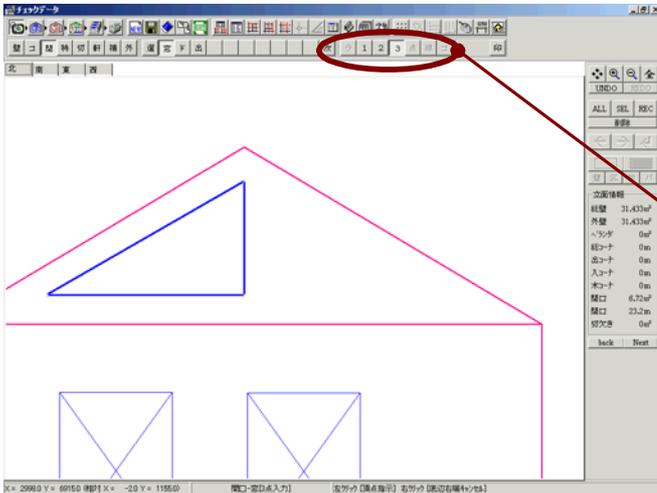
読み込みを行なう図面の縮尺が固定で正確な図面が多いが、一部に不正確な図面がある場合にご利用下さい。

初期値は[全手動]の状態になっています。（今までの入力の流れと同様の設定になっています。）

< 3 > 開口入力形状に《三角形》を追加

開口の入力に3点入力が追加され三角形の開口の入力が可能になりました。

切り妻壁部分の三角の開口など、今までは四角形で入力し減算していた開口面積や開口外周長さ等が開口の入力だけで求める事ができます。



開口入力ボタン



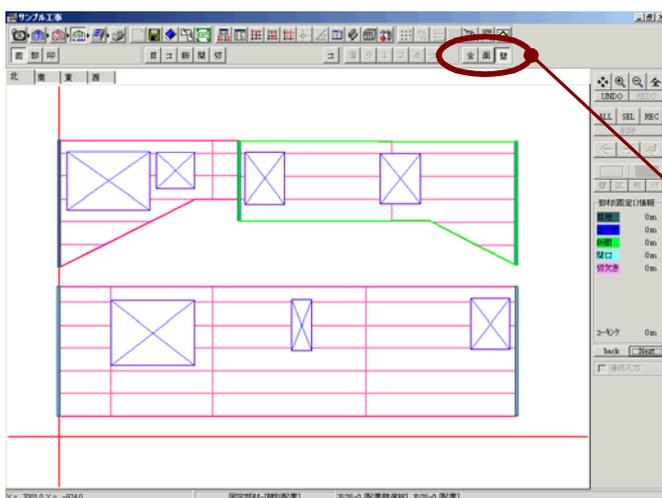
3点入力ボタン

三角形の底辺の2点と頂点の1点を指示し、三角形を入力して開口領域を入力します。

< 4 > 副資材自動配置機能に壁別配置機能を追加

副資材の壁ごとの拾い出しが可能になりました。

副資材の自動配置（【全】処理・【面】処理）に<【壁】処理>が追加され、【全】・【面】処理の場合と同じように、あらかじめマスターで自動拾い出し設定されている副資材を壁ごとに自動で拾い出しを行ないます。1・2階でコーキングやジョイナーが異なるなど副資材を分ける必要がある物件で有効にご利用いただけます。



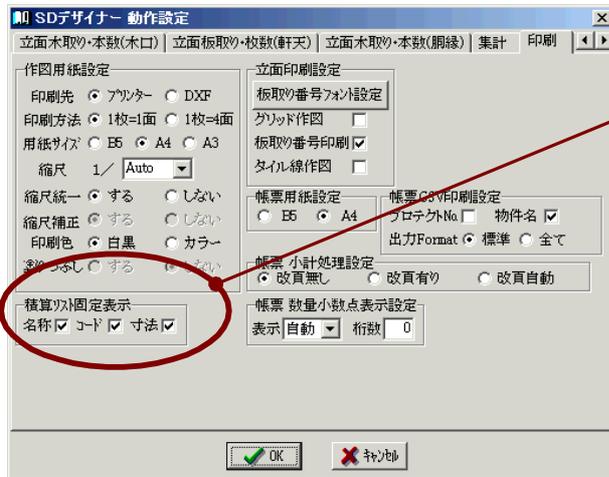
副資材自動拾いボタン



【壁】処理ボタン

【壁】処理ボタンを有効にする為には、固定部材か設定部材かを選択する必要があります。

積算画面表示列の固定設定



積算リスト固定表示

固定表示を省く項目のチェックをはずします。

初期値は、すべてチェックが入った状態になっています。

[名称]・[コード]・[寸法]の各々の表示列がリスト左側に固定表示されています。

必要に応じてチェックを外してご利用下さい。

[名称]だけチェックが入った設定の積算画面

[コード]・[寸法]の列は固定表示されません。

< 6 > 製品登録画面 [コード]・[製品名]を固定表示に変更

[コード]・[製品名]の列が固定されています

製品登録内容表示

< マスター > - < 立面 > の製品登録画面において[コード] [製品名]が常にリスト左側に固定で表示されるように機能変更されました。

固定している列の入力項目は、今までと同様にリスト表示されています。入力値が変更された場合、固定している列の内容も連動して変更されます。

下記のマスター登録の画面に付いて固定表示されています。

パネル製品・・・ 壁・コーナー・(軒天)

部材製品・・・ 部材・固定部材

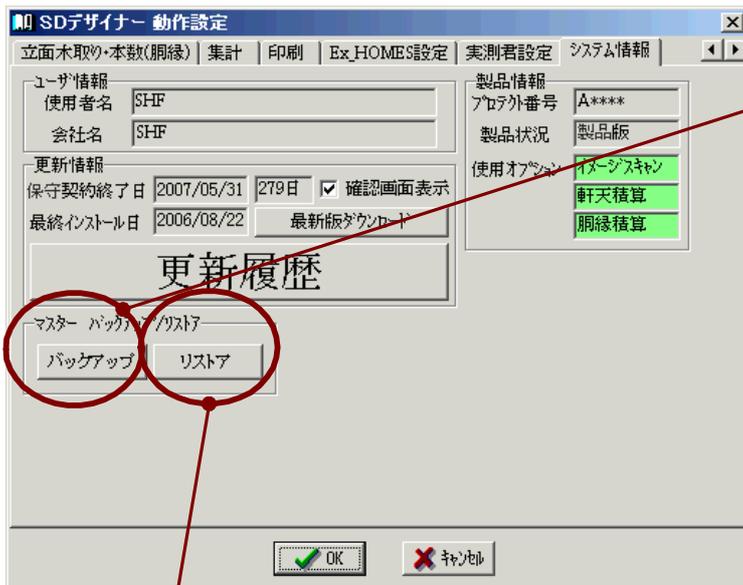
(胴縁・・・ 胴縁)

軒天・胴縁 については、オプション機能が追加されている場合に表示されます。

<7> マスター及び環境設定のバックアップ/リストア機能を追加

マスターファイルのバックアップをする機能及びリストア機能（バックアップしたファイルを戻す機能）が追加されました。再インストール等にご利用いただけます。

注意 バックアップとリストアの機能は同一のVer間においてのみ有効です。
異なるVerのバックアップファイルをリストアする事はできませんのでご注意ください。



バックアップ

SDデザイナーの動作に必要なマスターや環境設定等のフォルダやファイルをまとめて、ひとつの圧縮ファイルにバックアップします。バックアップしたファイルは固有の名称と拡張子をもちます。

VER2.7.5.8のプログラムでバックアップした場合

SdMastBack(2_7_5_8).smb

という名称のファイルが、SDデザイナーのプログラムがインストールされているフォルダ内に生成されます。（標準のインストール先の場合、C:\Program Files\SDデザイナー）

正常にバックアップが行なわれた場合、下記のようなメッセージが表示されます。

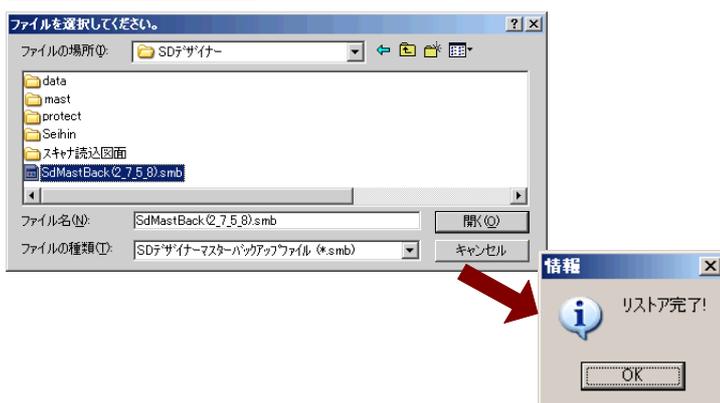


<バックアップされるファイル>

【Mast】フォルダ内のファイル
【Seihin】フォルダ内のファイル
sding.ini
version.ver
バックアップ.INI
色設定.INI

注意
物件データはバックアップされません

リストア



バックアップしたファイルを元に戻す処理を行ないます。

現在のファイルにすべて上書されます。

バックアップした固有のファイル（拡張子 smb）のある場所を選択し、リストアするバックアップファイルを指示します。

【Mast】フォルダ、【Seihin】フォルダ内のファイルについては、起動中の環境設定のデータパスを参照してリストアを行ないます。